

- ア・ボソウ個体群の社会構造の検討から. 第35回日本生態学会大会. 講演要旨: 314.
- 2) 杉山幸丸 (1988): ニホンザルの保存と管理—高崎山から野生個体群まで. 第4回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 4(2): 155.
  - 3) 杉山幸丸 (1988): チンパンジーの文化—棒器使用と石器使用. 第7回日本動物行動学会大会. 講演要旨: 15.
  - 4) 森 明雄 (1988): ニホンザル幸島群におけるオトナメス間の順位序列の経年変化. 第4回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 4: 160.
  - 5) 山極寿一・丸橋珠樹・湯本貴和・ムワンザ・ンドゥンダ (1988): ゴリラとチンパンジーの種間関係について. 第4回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 4: 159.
  - 6) Yamagiwa, J., Maruhasi, T., Yumoto, T., & Mwanza, N. (1988): Ecological studies on sympatric populations of *Gorilla g. graueri* and *Pan t. schweinfurthii* in eastern Zaire. XIIIth Congress of International Primatological Society. Int. J. Primatol., 8: 519.
  - 7) 山極寿一 (1988): マウンテンゴリラの異性愛行動と同性愛行動. 第7回日本動物行動学会大会. 講演要旨: 31.
  - 8) 宮藤浩子 (1988): ニホンザル幸島群の遊動と統合機構—大群と小群の比較—. 第35回日本生態学会大会. 講演要旨: 312.
  - 9) 宮藤浩子 (1988): ニホンザル未経産メスの周辺化傾向—相対的周辺度と近接度をもとにして—. 第4回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 4: 163.
  - 10) 三谷雅純 (1988): 南西カメルーン、カンボ動物保護区における樹上性霊長類の混群形成. 第35回日本生態学会大会. 講演要旨: 315.
  - 11) 岩本俊孝・三谷雅純 (1988): 西アフリカ、カメルーンの熱帯雨林に生息するダイカー類の食性について. 第35回日本生態学会大会. 講演要旨: 299.
  - 12) 三谷雅純 (1988): カメルーンの熱帯多雨林における樹上性霊長類の混群形成. 第4回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 4: 159.
  - 13) 広谷 彰 (1988): 家畜管理がトナカイの社会関係におよぼす影響. 第35回日本生態学会大会. 講演要旨: 301.
  - 14) 中川尚史 (1988): 金華山島における野生ニホンザルの冬季のエネルギー収支. 第4回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 4: 179.
  - 15) 佐倉 統 (1988): チンパンジーの単雄コミュニティ. 第4回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 4: 157.
  - 16) 佐倉 統・松沢哲郎 (1988): チンパンジーの道具使用: ヤシの実割りの生態学的実験. 第7回日本動物行動学会大会. 講演要旨: 15.
  - 17) 佐倉 統・松沢哲郎・杉山幸丸 (1988): ジェザー・ボソウの野生チンパンジーの一日. 第7回日本動物行動学会大会. 講演要旨: 34.
  - 18) 松沢哲郎・佐倉 統 (1988): チンパンジーの採食地選択: 行列の観察と足跡の個体識別による分析. 第4回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 4: 155.
  - 19) 芝原綾子・井上美穂・竹中晃子・杉山幸丸・Soumah, A. G.・竹中修・大沢秀行 (1988): 交尾期におけるニホンザルの雌の雄に対する行動. 第7回日本動物行動学会大会. 講演要旨: 16.

## 生理研究部門

大島 清・目片文夫・林 基治  
野崎眞澄・清水慶子<sup>1)</sup>

### 研究概要

- 1) マカクザル胎児の感覚系発達に関する生理学的研究

大島 清

マカクザルの胎生各期における感覚系の発達を電気生理学的・生化学的に解明する。

- 2) Prostaglandin E<sub>2</sub> のサル子宮頸管に与える影響

大島 清・清水慶子

PGE<sub>2</sub> を妊娠末期のサル子宮頸管内に投与し、頸管の熟化、分娩誘発および胎児に与える影響を調べた。

- 3) ニホンザルの繁殖期の季節性のメカニズムの神経内分泌学的研究

- 
- 1) 教務職員

大島 清

4) サルとヒトの比較セクソロジー

大島 清

5) 血管平滑筋細胞膜の電気生理学的研究

目片文夫

i) ピッチクランプ方による平滑筋細胞膜の単一イオンチャンネル電流の熱力学的解析

ii) 心筋と冠状血管平滑筋との電気的相互作用

6) サル脳内神経活性物質の分布特性

林 基治

中枢神経系における神経成長因子 (NGF) の分布を高感度酵素免疫測定法を用いて調べた。

7) サル脳内神経活性物質の個体発生

林 基治・山下晶子・清水慶子

小脳におけるソマトスタチン、CCK-8、P 物質の発達を免疫組織化学法を用いて調べた。

8) 霊長類の生殖リズムの発現機序

野崎眞澄

ニホンザルの季節繁殖リズムの発現に日長や環境温度がどのような影響を及ぼしているかを生殖関連ホルモンの分泌動態を指標にして調べた。

9) 霊長類の松果体の光感受性

野崎眞澄

ニホンザルの松果体の光感受性の程度を調べるため種々の光条件下で飼育して夜間一定時間、点灯実験を行った。結果は現在解析中である。

10) サル胎児消化管の発生細胞学的研究

清水慶子

胎生各期における消化管細胞の発達を免疫組織化学法を用いて調べた。

総 説

1) 大島 清 (1988) : 人間進化の意味を探る。G-TEN、32号 : 26-35.

2) 大島 清 (1988) : 行動のホルモン支配—子どもの発達を考へて。小児科診療、51 : 17-21.

3) 大島 清 (1989) : セクソロジーからみた現代と未来。G-TEN、38号 : 9-15.

4) Mekata, F. (1988) : Potassium Channel in the Smooth Muscle Cell Membrane. In Calcium in Essential Hypertension (ed. by Aoki, K. & Frohlich, E. D., Academic Press) 189-198.

論 文

1) Hayashi, M., Yamashita, A., Shimizu, K., Oshima, K. (1989) : Ontogeny of cholecystokinin-8 and glutamic acid decarboxylase in cerebral neocortex of macaque monkey. Exp. Brain Res., 74 : 249-255.

2) Yamashita, A., Hayashi, M., Shimizu, K., Oshima, K. (1989) : Ontogeny of somatostatin in cerebral cortex of macaque monkey : an immunohistochemical study. Dev. Brain Res., 45 : 103-111.

3) Nozaki, M., Miyata, K., Oota, Y., Gorbman, A., Plisetskaya, E. M. (1988) : Colocalization of glucagon-like peptide and glucagon immunoreactivities in pancreatic islets and intestine of salmonids. Cell Tissue Res. 253 : 371-375.

4) Shimizu, K. (1988) : Ultrasonic assessment of pregnancy and fetal development in three species of macaque monkeys. J. Med. Primatol., 17 : 247-256.

報告・その他

1) 大島 清 (1988) : 胎児教育。ごま書房。

2) 大島 清 (1988) : 胎児に音楽は聞えるか。PHP.

3) 大島 清 (1988) : 頭の使い方。ごま書房。

4) 林 基治・大島 清 (1988) : サル小脳における神経活性物質の発達。昭和62年度厚生省心身障害研究報告書。19-22.

5) 林 基治 (1988) : 末梢神経系におけるペプチドニューロン—個体発生と神経成長因子の影響—第1回神経の再生と機能再建の研究会記録集。14-19.

6) 野崎眞澄 (1988) : 鎮痛ペプチド。ホルモンハンドブック (日本比較内分泌学会編)、南江堂、p. 65-88.

7) 野崎眞澄 (1988) : P物質類似ペプチド。ホルモンハンドブック (日本比較内分泌学会編)、南江堂、p. 89-97.

8) 野崎眞澄 (1988) : 動物実験に未来はあるか。日本比較内分泌学ニュース。51・13-15.